

# 画像を使った自学自習教材「スタディLockTile」で、次世代の教育ツールを実現

## 概要

画像認証アプリケーション「LockTile (ロックタイル)」の機能を活用した自学自習教材「スタディLockTile」を企画・開発した。デジタル化が進む教育現場に、教える側も学ぶ側も利用しやすいサービスを目指す。

## 本事業への取り組みの経緯

ICT活用による学習支援システムが注目されている。その一つが、平成25年6月に閣議決定された「世界最先端IT国家創造宣言」で、教育現場のデジタル化を促す継続的な動きがある。このような環境の変化に対応できるよう、より教育現場に適した次世代の教育ツールを研究開発する必要があると考えた。

当社は平成26年に画像認証システム「LockTile (ロックタイル)」を開発している。スマートフォンやタブレット端末のロック画面に表示される画像の中から、あらかじめ設定しておいた画像をタップしてロック機能を解除するという機能で、英数字などで作成した文字パスワードではなく、「画像選択方式」で本人認証を行う。画像には①記憶に残りやすい②理解度を深められるという特性がある。この機能を活用して、新しい教材「スタディLockTile」のプロトタイプの開発に取り組んだ。



画像をタッチして本人認証ができる「LockTile」

## 事業概要

「スタディLockTile」では画像を使った問題を配信し、回答結果を集計することができる。

### ①問題集をつくる

テキストも簡単に入力でき、画像もドラッグ&ドロップで配置。



1問作成するのにかかる時間は約1分。

### ②問題を解く

作成された問題はインターネットで自動配信。正解をタップすると音が出る。



画像をタップしてさくさく学習。

### ③成績情報を見る

解答した情報はサーバーに蓄積。iPad

## 株式会社インフォファーム

代表取締役 辻 博文

●所在地/〒501-6123

岐阜県岐阜市柳津町流通センター1丁目8番地4

●TEL/058-279-1881 ●FAX/058-279-039

●設立/昭和44年11月17日

●資本金/8,000万円 ●従業員数/260人

http://www: infofarm.co.jp

e-mail: info@infofarm.co.jp



代表取締役  
辻 博文

## 企業概要

企業・自治体の情報システムの開発・販売・メンテナンスを行う企業として昭和44年に創業。地元密着のワンストップサービスに加え、自社開発のSFA/CRMシステム「戦略箱ADVANCED」やBI(ビジネスインテリジェンス)ツールの「Bird's View」、画像認証アプリケーション「LockTile (ロックタイル)」などのパッケージビジネスを展開。平成7年に名古屋支店、平成10年に東京支店、平成22年に中国に現地法人を設立し、活躍の場を広げている。

アプリからはランキングとして、Webサービスからはより詳細に分析された情報を確認できる。



自動で集計、分析します

順位	学年	科目	正解数	正解率	問題数
1	6年1組	国語	45/43	97.7%	45
2	6年1組	算数	47/43	95.3%	49
3	6年1組	英語	46/43	93.0%	49
4	6年1組	理科	45/43	91.0%	49
5	6年1組	社会	45/43	91.0%	49
6	6年2組	国語	45/43	91.0%	49
7	6年2組	算数	44/43	90.7%	48
8	6年1組	英語	42/43	85.7%	49
9	6年1組	理科	42/43	85.7%	49
10	6年1組	社会	41/43	83.6%	49
11	6年1組	国語	40/43	81.0%	49
12	6年2組	算数	40/43	81.0%	49

生徒の苦手な分野も一目瞭然

学年	正解数	正解率
英語検定準級1	108 / 134	79.9%
英語検定準級2	97 / 133	72.9%
英語検定準級3	74 / 133	55.6%
英語検定準級4	78 / 133	57.9%
英語検定準級5	84 / 133	63.1%
英語検定準級6	94 / 133	70.6%
英語検定準級7	85 / 133	63.9%
英語検定準級8	50 / 134	37.3%
英語検定準級9	50 / 133	37.6%
英語検定準級10	79 / 133	59.4%

どの程度のレベルに位置しているか判断できる。

「スタディLockTile」を教育現場のニーズに対応できるサービスにするため、クラウド

環境を立ちあげ、実際にインターネットからの通信評価を行った。さらに先生や生徒が作成した問題を配信できるように簡易的な問題配信手順として、Windows環境上で動作する問題作成ツールの開発をおこない、マルチプラットフォームへの展開を進めた。そして、次世代の教育環境との連携をはかれるように、電子黒板を用いた操作が授業での説明を想定した際に問題がないか確認した。

## 事業成果

サービス化に必要な要素は、「クラウド環境とサーバーアプリの完成」、「iPad用スタディLockTileの配信」、「問題配信手順としてのWindows環境用問題作成ツールの完成」、「インターネットからの通信評価」、「電子黒板での動作評価」で、基本機能の完成と動作評価が完了した。

## 成果の活用状況

(補助事業実施後の取り組み)

「スタディLockTile」は教育現場の環境改善、児童・生徒の学力向上にも期待が寄せられる。企業や教育機関等への提案を進めており、現在、企業1社で運用が開始されている。今後の課題は販売パートナー、問題作成パートナーを募集し、販路を確立することである。自社での提案も継続して行っていきたい。